

## 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8232
担当部課名	保健福祉部	子育て支援	課	児童育成 班
事務事業名	母親クラブ育成費		事業コード	13120

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第3章	子どもが健やかに育つ環境づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第1節	子育て環境づくりの推進	~63 年度
施策名	第2施策	子育て支援の充実	

## 2 実施根拠及び関連法令等

相模原市母親クラブ連絡協議会補助金交付要綱  
相模原市母親クラブ連絡協議会規約

## 3 事業概要

(1) 事業の目的 地域の子どもの幸せと母親自身の向上を目指して継続的に活動する自主的な団体に対する支援及び育成	(2) 対象(誰、何) 相模原市母親クラブ連絡協議会及び単位母親クラブ 対象数 17クラブ・257人
(3) 平成13年度事業の内容 相模原市母親クラブ連絡協議会補助金交付 388千円 ・連絡協議会分 150千円 ・単位クラブ分 @14千円×17クラブ = 238千円 地区講習会の開催(1回) 講師謝礼 39千円 地区講習会用消耗品 13千円	(4) 総合計画・実施計画における概要 なし
(5) 個別計画の概要 計画名 相模原市児童育成計画 計画年次 13年度~17年度 3. 子育てが楽しい環境づくり 3) 母親クラブの充実	

## 4 評価指標

指標名			
指標式			
指標設定の意図			

## 5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標			a	b		
指標			c	d		
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	445	433	440	571	556
	人員・時間数	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	人件費	2,526	2,526	2,526	2,526	2,526
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	2,971	2,959	2,966	3,097	3,082
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 B ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 =
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%> )	
$\frac{a}{b} \times 100 =$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
理由 :	継続的に活動する自主的な団体に対する支援及び育成を目的に事業を実施しているが、新しいクラブが誕生しても数年で解散をしてしまうケースが見受けられ、全体として単位クラブ及び会員数の増加につながらっていない。	

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 B ▼	A : 適応している	理由 : 単位クラブ及び会員数が横ばいであるため、会員増を図るための新たな取り組みが求められている。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 B ▼	A : 妥当である	理由 : 単位クラブ及び会員数が横ばいであること、また、単位クラブの空白地区があることなどから、費用対効果は、充分とは言い難い。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 C ▼	A : 代替の可能性ない	理由 : 連絡協議会の事務局を市が行っているが、団体の自立及び時代の変化による市との関わり方の見直しという考え方から事務局機能の団体への移管について、検討をする必要がある。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 A ▼	A : 満足できる	理由 : 事業については、対象団体からの要望に基づいて実施しているため、対象市民の満足は得られている。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 B ▼	A : 有効である	理由 : 家庭教育の必要性が重要視されてきているなか、母親クラブの役割が高まってきているが、単位クラブの空白地区があるため、事業を実施しても全市的なものとしていくことは難しい。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 現在、構成員となっている「相模原市女性団体連絡協議会」と連携を図りながら事業を実施していけば、対象者も増え、母親クラブへの理解とつながっていくものと考えられる。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 成果向上の余地と同様のかたちをとれば、効率よく事業が実施でき、コストも押さえられると考えられる。</p>

7 総合評価

評価 B ▼	他自治体の類似事業との比較	県下(政令指定都市を除く)17市のうち、母親クラブ連絡会があり、事業費を予算化しているのは8市である。
		<p>今後の進め方</p> <p><input type="checkbox"/> 継続</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止</p> <p><input type="checkbox"/> 完了</p>
説明		昭和40年代から50年代初めまでは100を超える単位クラブがあったが、核家族化・少子化の進展や、会員の高齢化・就労化の進展により、この10年間は15から20のクラブ数となっているため、母親クラブの活動も変革を求められている。また、昭和39年に連絡協議会が結成されてから、補助金の交付とともに事務局を市が行っているが、時代の変化とともに市との関わり方も見直しが必要と考える。

8 二次評価における変更点

・市が受け持っている事務局機能の廃止について検討すべきである。